

## 歌舞伎座の思い出

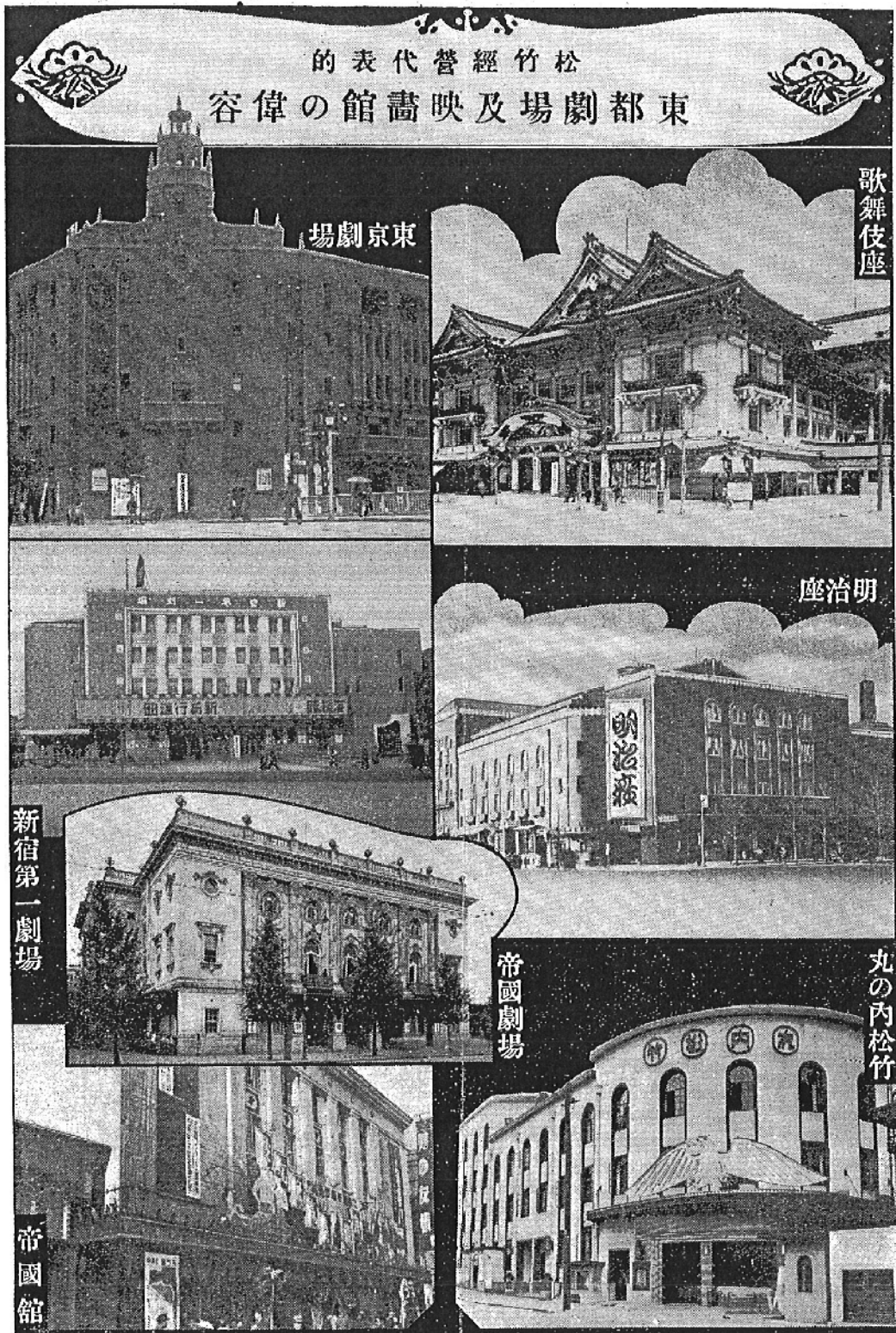
1945 年卒業

島 純一

私が歌舞伎座に初めて行ったのは、はっきり覚えていないが、忠臣蔵の通しが上演された時である。歌舞伎をみていたのは、それより早く、手元にあるプログラムを見ると、昭和12年と13年のがあるので、当時は、新宿第一劇場という劇場が甲州街道の今は、新宿南口の反対側にあり、勉強も兼ねて、大幹部の御曹司が、殆ど毎月、歌舞伎の上演をしており、座頭が我当、後の、十三世・仁左衛門で、立女形が、訥升、後の八世・宗十郎、二枚目が、十四世・勘弥、が常連で、福助、後の、六世・歌右衛門が、時々参加するといった連中である。しかし支那事変の影響かは、分らないが、昭和14年に解散して、歌舞伎座に出演することになったがそうなれば、大きな役は、付かず、福助は、五世・歌右衛門が親だけに、比較的好い役に恵まれていた。訥升は、十五世・羽左衛門の部屋子になっていた。

私が、歌舞伎座の舞台裏を見たのは、誰かの紹介状があつてのことだと思うが、休憩時間か、または25日過ぎかは、覚えていないが、当時の大道具の長谷川権八さんと話す機会があり、舞台全体の書いてある図面を頂き、暖簾は、「わらび」が、良いなどと私は思うなどと、云つたことがあつた。その時か、別の時かは、覚えていないが、六世・菊五郎が、本物の鶺鴒を使って、長良川の鶺鴒の芝居を上演している時に、舞台裏にいて、男女蔵の台詞を聞いていたが、普通の発声で、特に、大きな声を出してはおらず、これが三階席まで聞こえるのかと不思議に思ったものである。男女蔵は、後の、三世・左団次である。六世・菊五郎は、声量の悪い人で、三階では、聞き取れないこともあつた。十五世・羽左衛門が、三千歳を、十二世・仁左衛門と演じていた時のことだが、千代春を、我童、死後、十四世・仁左衛門を追送された人と千代鶴役を、訥升・後の八世・宗十郎が演じていたが、二人とも、色気たっぷりの人なので、三千歳役の十二世・仁左衛門より、ずっと色気があり、仁左衛門は、容姿は、良いがなんとなく、冷たい感じがする人なので、それが、戦後の食糧難の時に、住み込み弟子の配給米まで、自分たち家族に食べさせて、弟子には、薩摩芋ばかり食べさせていたので、その弟子が恨んで、薪割り家族全員を殺すと云う惨事を起こさしたので、やはり、舞台にも、それが感じられたと思つたものである。なお、戦前の歌舞伎座の三階には、上手よりに、蕎麦屋があり、三千歳の蕎麦屋の場面があると、蕎麦屋の売り上げが多くなると、云われていた。

現在の歌舞伎座は、地下の和食店の奥にあるが、数年前までは、三階の下手よりにあつたので、三階の時には、よく食べに行ったものである。なお、歌舞伎座の屋根は、現在は、はふ屋根が二つしかないが、戦災で焼ける前は、写真のように、三つあつたが、昭和26年に建て直す時に、時間的か経費的か、二つになつたのである。



なお、歌舞伎座は、昭和19年2月をもって、戦時下の為として、閉鎖されて、産業戦士の家族には、入場させていたが、昭和20年の5月の空襲で消失したのである。来年の5月？から取り壊して、3

年くらいは、新築出来ないと思うが、屋根の形も、現在のもののイメージを残すとのことであり、エスカレーターもエレベーターもあると思っている。新橋演舞場は、昇りのエスカレーターはあるが、下りはないので、そんなことは、しないでほしい。

なお、参考のために、昭和 19 年の歌舞伎座の観劇料は、一等が 4 円 95 銭で、別に税金が、9 割つく。三階の後ろの席が、79 銭で、税金が、4 割ついでおり現在の消費税の 5 パーセントと比べて、如何に高いか、これも戦争のためである。

三階の前の席は、梅席、後ろの席は、菊席と言われていた。現在は、どうか？

新歌舞伎座の完成が少しでも早いことを期待しております。